

ジーコム独自調査レポート NO.164

今の暮らし向きと 2023年の 景気予想

福岡県居住者の「暮らし向き」に関する調査

2023年1月

Research & Consulting
G:COM
株式会社ジーコム

調査概要

1. 調査方法

当社アンケートモニター「コムネット」登録者に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

2022年12月16日（金）～12月23日（金）

4. 調査規模

400サンプル

【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	152	38.0
女性	248	62.0
全体	400	100.0

■年代	件数	構成比(%)
20・30代	100	25.0
40代	98	24.5
50代	102	25.5
60代以上	100	25.0
全体	400	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡市	231	57.8
福岡市以外都市圏	86	21.5
その他福岡県	83	20.7
全体	400	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	116	29.0
公務員	10	2.5
団体職員・病院勤務	13	3.3
経営者・会社役員	11	2.8
派遣社員・契約社員	31	7.8
商工自営	18	4.5
農林漁業	-	-
自由業	7	1.8
学生	1	0.3
パート・アルバイト	63	15.8
専業主婦(主夫)	85	21.3
無職	44	11.0
その他	1	0.3
全体	400	100.0

■ライフステージ	件数	構成比(%)
未婚	101	25.3
既婚・子どもなし	46	11.5
既婚・子どもが小学生以下	95	23.8
既婚・末子が中学生以上で扶養	54	13.5
既婚・子育て終了	104	26.0
全体	400	100.0

■世帯年収	件数	構成比(%)
200万円未満	29	7.3
200～300万円未満	39	9.8
300～400万円未満	48	12.0
400～500万円未満	31	7.8
500～600万円未満	48	12.0
600～700万円未満	35	8.8
700～800万円未満	35	8.8
800～900万円未満	21	5.3
900～1000万円未満	16	4.0
1000～1500万円未満	31	7.8
1500万円以上	4	1.0
答えたくない	62	15.5
全体	399	100.0

【報告書の見方】

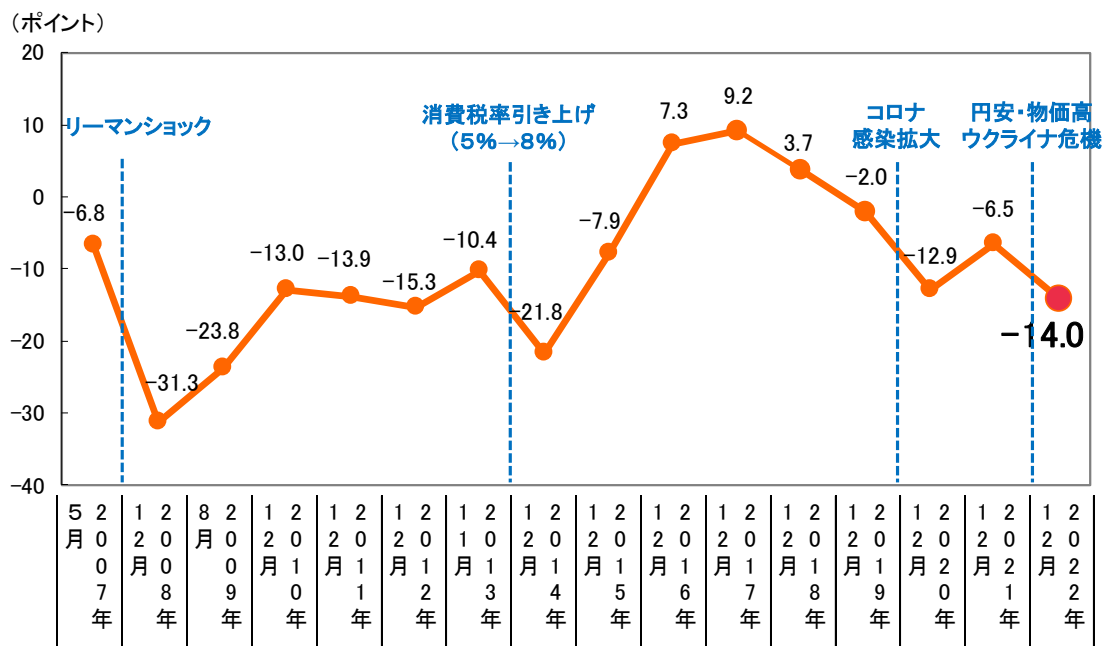
- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合や合計値に誤差が生じる場合がある。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

1. 暮らし向きの変化

2022年の生活者の暮らし向きはコロナ直後よりも悪化し過去10年で二番目の低さに

- 1年前と比べ暮らし向きが「良くなった」「どちらかというようになった」と回答した割合から、「悪くなった」「どちらかというが悪くなった」と回答した割合を減じた『暮らし向き判断指数』は-14.0ポイント。コロナ感染が始まった2020年よりも悪化した。
- 年代が高くなるにつれて、暮らし向き判断指数が低く、昨年からの減少幅も大きい。
- 世帯年収別では、500万円未満層はマイナス20ポイントを下回り、昨年からの減少幅も顕著である。

◆暮らし向き判断指数の推移



◆1年前と比べた暮らし向きの変化【単一回答】

	調査数	【%】		【ポイント】	
		肯定層	否定層	暮らし向き判断指数	暮らし向き判断指数
全体	400	14.5	28.5	-14.0	-6.5
性別					
男性	152	11.8	28.3	-16.4	-7.4
女性	248	16.1	28.6	-12.5	-6.0
年代別					
20・30代	100	24.0	19.0	5.0	6.0
40代	98	15.3	25.5	-10.2	-11.0
50代	102	13.7	35.3	-21.6	-10.0
60代以上	100	5.0	34.0	-29.0	-11.0
世帯年収別					
300万円未満	68	10.3	41.2	-30.9	-18.8
300～500万円未満	79	15.2	39.2	-24.1	-12.5
500～700万円未満	83	13.3	28.9	-15.7	5.7
700～900万円未満	56	17.9	23.2	-5.4	-1.9
900万円以上	51	21.6	5.9	15.7	10.4

* 肯定層＝「良くなった」＋「どちらかというようになった」
 否定層＝「悪くなった」＋「どちらかという悪くなった」
 暮らし向き判断指数＝肯定層－否定層

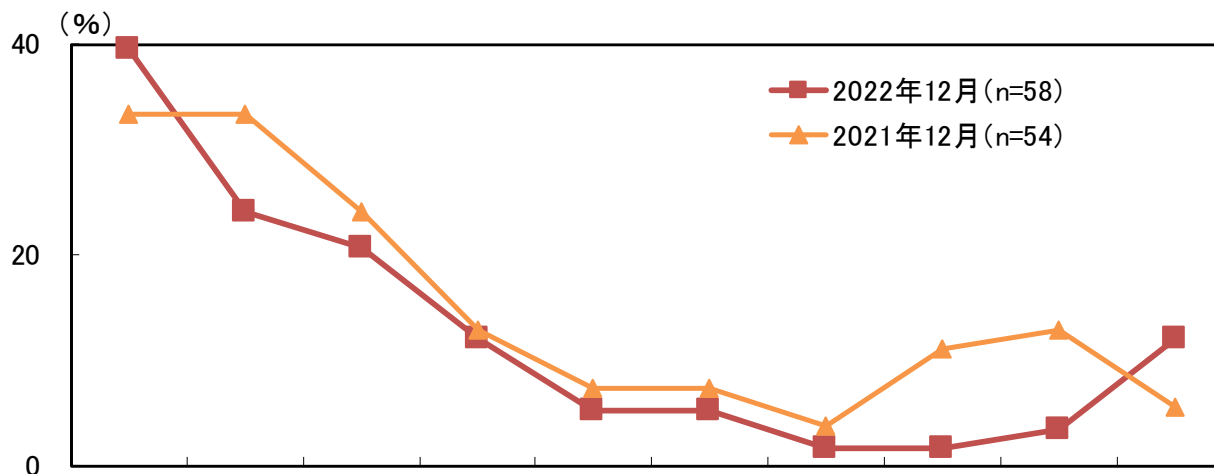
2. 暮らし向きが良くなった理由

* 暮らし向き肯定層限定

- 暮らし向きが良くなった理由では、「世帯主の収入増」が1位で昨年より増加した。一方、「外出・レジャーの出費減」という割合は昨年と比べて減少した。

* サンプル数が少ないため、属性別の分析は省略した。

◆ 暮らし向きが良くなった理由【複数回答】



調査数	世帯主の収入が増えた	外出・レジャーの出費減	新型コロナウイルスの影響で外食やレジャーの支出が減った	共働きするようになった	同居家族の人数が減った	同居している子どもが社会人になった	世帯主が副業を始めた	住宅などのローンの支払いが終わった	その他	特にない・わからない
2022年12月	58	39.7	24.1	20.7	12.1	5.2	1.7	1.7	3.4	12.1
2021年12月	54	33.3	33.3	24.1	13.0	7.4	3.7	11.1	13.0	5.6

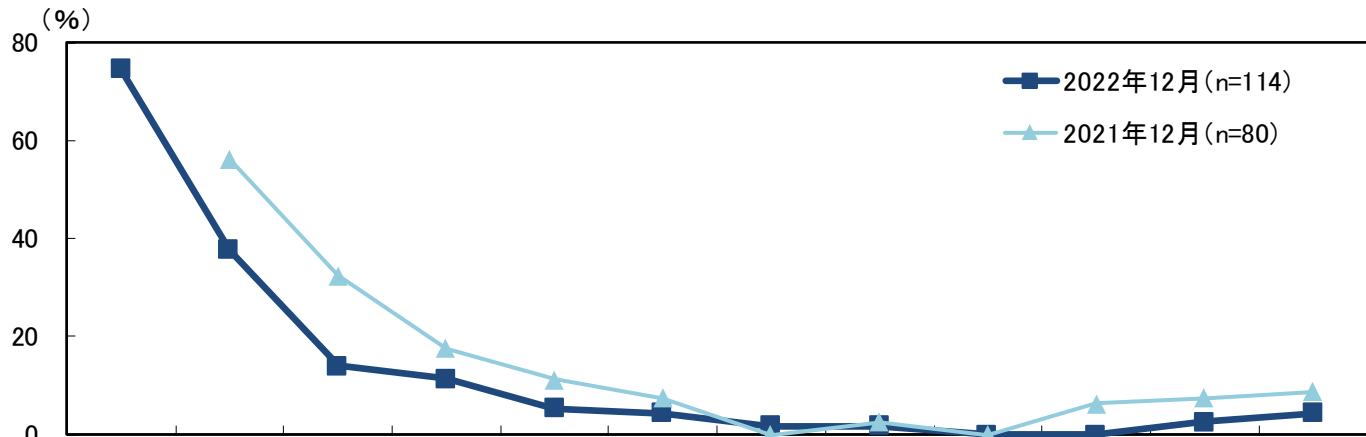
3. 暮らし向きが悪くなった理由

*暮らし向き否定層限定

- 暮らし向きが悪くなった理由は、「物価の上昇」が7割半と顕著に高く、暮らしに与えた影響が大きいことを物語る。
- それに次ぐ「収入減」「コロナの影響による出費増」「教育費増」などは昨年より減少している。

*サンプル数が少ないため、属性別の分析は省略した。

◆暮らし向きが悪くなった理由【複数回答】



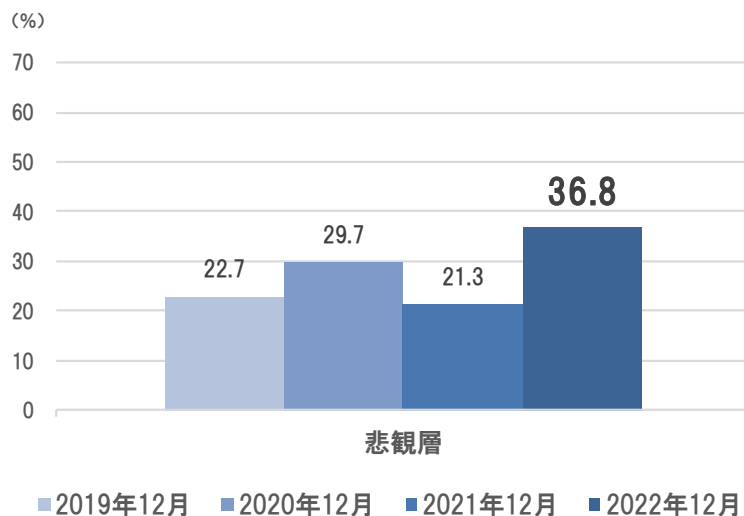
調査数	物価が上がったから	世帯主の収入が減ったから	新型コロナウイルスの影響で出費が増えたから	教育費が増えたから	家族の病気治療や介護が必要になったため	共働きをやめたから	世帯主が副業をやめたから	住宅などのローンの支払いが始まった（増えた）から	同居家族の人数が増えたから	別居している家族への仕送りが必要になったから	その他	特にない・わからない	
2022年12月	114	74.6	37.7	14.0	11.4	5.3	4.4	1.8	1.8	-	-	2.6	4.4
2021年12月	80	-	56.3	32.5	17.5	11.3	7.5	-	2.5	-	6.3	7.5	8.8

4. 今の暮らし向きと2023年の世の中の景気予想

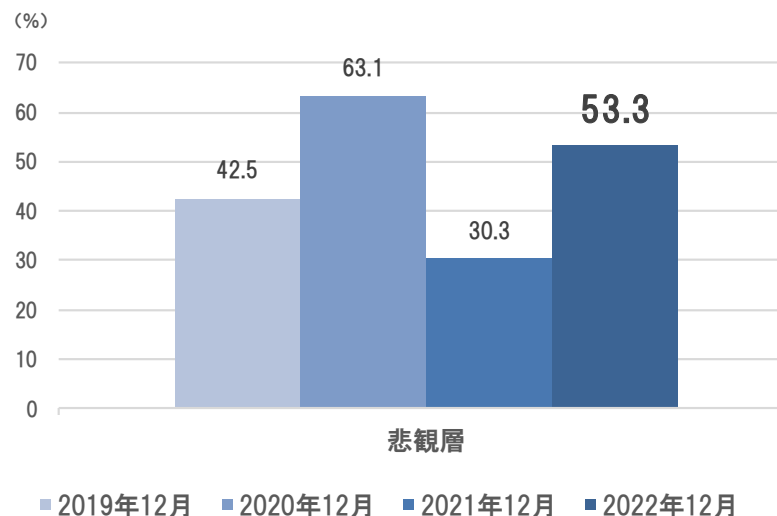
2023年の世の中の景気について、悲観層は半数を上回る。

- 2023年の「自分自身の暮らし向き」と「世の中の景気」について、「悪くなる」「どちらかという悪くなる」と回答した悲観層は、どちらも昨年より増加し、特に「世の中の景気」については昨年より大幅に増加した。

◆今の自分自身の暮らし向き予想 悲観層の推移
【単一回答】



◆2023年の世の中の景気予想 悲観層の推移
【単一回答】



	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
調査数	449	434	400	400	449	434	400	400
悲観層	22.7	29.7	21.3	36.8	42.5	63.1	30.3	53.3

* 悲観層 = 「悪くなる」+「どちらかという悪くなる」

●「2023年の世の中の景気」は性年代別に見ても大きな差はなく、全体的に悲観層が高い一方、「今の自分自身の暮らし向き」の悲観層は60代以上で他の世代より高い結果となった。

●世帯年収別では、300万円未満層は「今の自分自身の暮らし向き」の悲観層の割合が、他の層に比べて高い。

◆今の自分自身の暮らし向き予想
【単一回答】

◆2023年の世の中の景気予想
【単一回答】

		調査数	良くなる	どちらかという と良くなる	どちらともいえない	どちらかという と悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層
全体		400	2.0	11.3	50.0	25.8	11.0	13.3	36.8
性別	男性	152	2.0	9.9	57.2	19.1	11.8	11.8	30.9
	女性	248	2.0	12.1	45.6	29.8	10.5	14.1	40.3
年代別	20・30代	100	4.0	12.0	53.0	24.0	7.0	16.0	31.0
	40代	98	2.0	13.3	58.2	17.3	9.2	15.3	26.5
	50代	102	2.0	10.8	45.1	28.4	13.7	12.7	42.2
	60代以上	100	-	9.0	44.0	33.0	14.0	9.0	47.0
世帯年収別	300万円未満	68	1.5	7.4	36.8	38.2	16.2	8.8	54.4
	300～500万円未満	79	1.3	15.2	43.0	22.8	17.7	16.5	40.5
	500～700万円未満	83	1.2	10.8	50.6	27.7	9.6	12.0	37.3
	700～900万円未満	56	3.6	10.7	41.1	37.5	7.1	14.3	44.6
	900万円以上	51	3.9	15.7	68.6	11.8	-	19.6	11.8

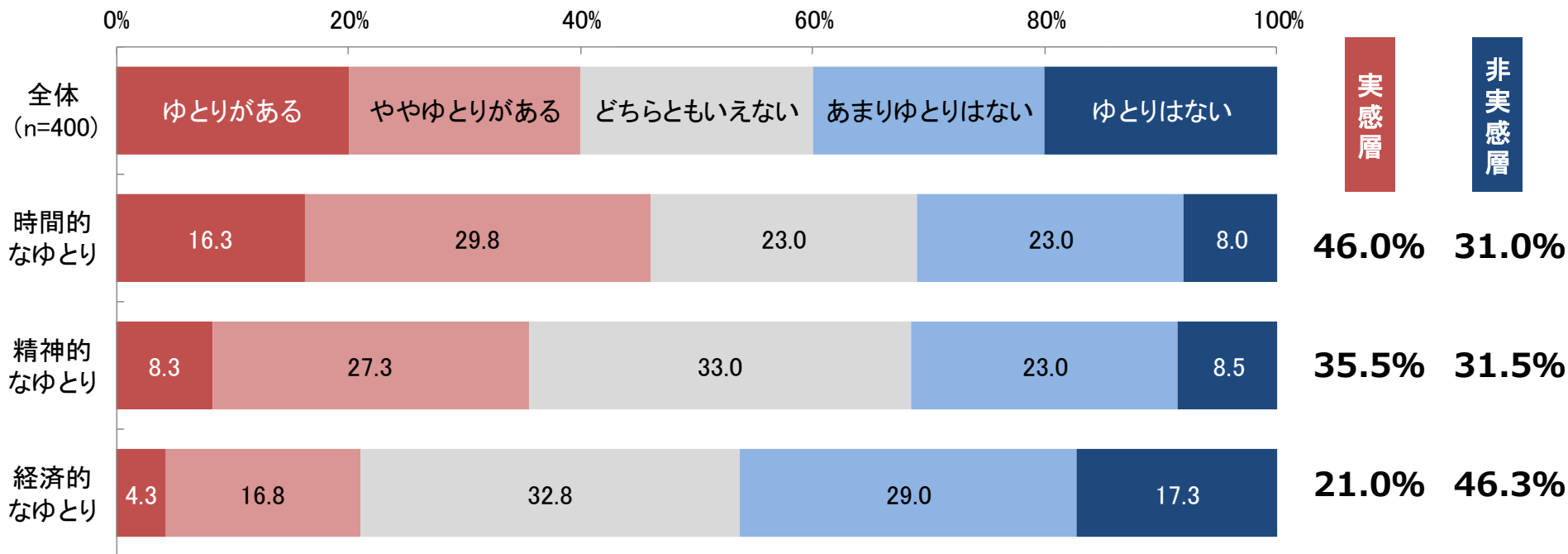
		調査数	良くなる	どちらかという と良くなる	どちらともいえない	どちらかという と悪くなる	悪くなる	楽観層	悲観層
全体		400	1.5	7.5	37.8	35.8	17.5	9.0	53.3
性別	男性	152	2.0	11.8	38.8	32.9	14.5	13.8	47.4
	女性	248	1.2	4.8	37.1	37.5	19.4	6.0	56.9
年代別	20・30代	100	4.0	8.0	37.0	37.0	14.0	12.0	51.0
	40代	98	1.0	3.1	52.0	27.6	16.3	4.1	43.9
	50代	102	1.0	6.9	33.3	36.3	22.5	7.8	58.8
	60代以上	100	-	12.0	29.0	42.0	17.0	12.0	59.0
世帯年収別	300万円未満	68	1.5	5.9	30.9	39.7	22.1	7.4	61.8
	300～500万円未満	79	2.5	6.3	35.4	36.7	19.0	8.9	55.7
	500～700万円未満	83	1.2	9.6	31.3	33.7	24.1	10.8	57.8
	700～900万円未満	56	3.6	3.6	35.7	46.4	10.7	7.1	57.1
	900万円以上	51	-	17.6	41.2	29.4	11.8	17.6	41.2

* 楽観層＝「良くなる」+「どちらかというと良くなる」
悲観層＝「悪くなる」+「どちらかというと悪くなる」

5. 生活ゆとり度

- それぞれの生活ゆとり度を聞いたところ、ゆとりを実感している実感層の割合は「時間的なゆとり」で最も高く46%、次いで「精神的なゆとり」が35%、「経済的なゆとり」が21%であった。

◆生活ゆとり度【単一回答】



* 実感層 = 「ゆとりがある」 + 「ややゆとりがある」
非実感層 = 「ゆとりはない」 + 「あまりゆとりはない」

- 年代別では、60代以上は他の年代に比べて「時間的なゆとり」「精神的なゆとり」の実感層の割合が高い。
- 世帯年収別では、300万円未満層は「時間的なゆとり」「精神的なゆとり」の実感層の割合が高い。また、900万円以上層は「経済的なゆとり」の実感層の割合が高い。

◆生活ゆとり度【単一回答】

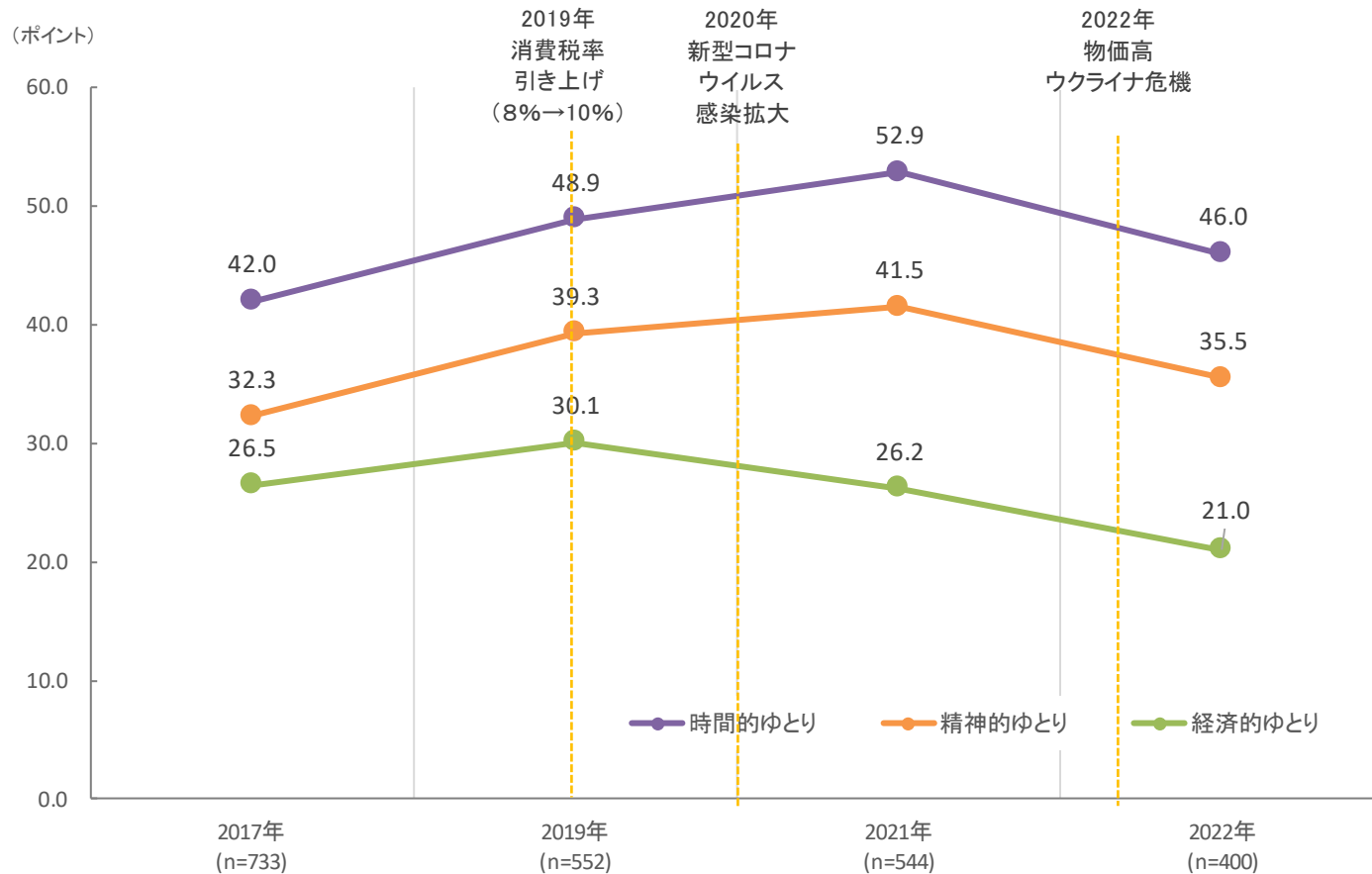
			【%】		
		調査数	実感層と時間的な	実感層と精神的な	実感層と経済的な
全体		400	46.0	35.5	21.0
性別	男性	152	40.1	27.6	22.4
	女性	248	49.6	40.3	20.2
年代別	20・30代	100	33.0	29.0	21.0
	40代	98	38.8	29.6	20.4
	50代	102	50.0	33.3	17.6
	60代以上	100	62.0	50.0	25.0
世帯年収別	300万円未満	68	57.4	47.1	8.8
	300～500万円未満	79	46.8	36.7	15.2
	500～700万円未満	83	41.0	31.3	19.3
	700～900万円未満	56	48.2	32.1	23.2
	900万円以上	51	47.1	39.2	41.2
暮らし向き別	肯定層	58	58.6	51.7	46.6
	否定層	114	42.1	21.9	6.1

*実感層＝「ゆとりがある」＋「ややゆとりがある」

●いずれのゆとり度も、昨年（2021年）調査より減少した。

●「時間的ゆとり」「精神的ゆとり」は似た傾向をたどっており、2021年まで上昇し今回減少した。新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限などで、時間的・精神的なゆとりが2021年には上昇したものの、行動制限の緩和などによって再び生活が元に戻りつつあることが背景にあるものと推察される。

◆生活ゆとり度の推移
実感層抜粋
【単一回答】



* 実感層 = 「ゆとりがある」 + 「ややゆとりがある」

**マーケティングリサーチからコンサルティングまで
福岡・九州の生活者マーケティングは、株式会社ジーコム**

1986年の創業以来、35年福岡・九州で
「マーケティング・リサーチ」と「ビジネスコンサルティング」の専門会社として、
顧客視点に基づく科学的なアプローチによつて的確な課題解決策を導き出し、
マーケティングサポートを行っています。

発行元：株式会社ジーコム

福岡市中央区天神4-1-1 第7明星ビル7F

TEL 092-761-0221 FAX 092-761-0228

<https://www.gcom-net.co.jp/>

inq@gcom-net.co.jp